

平成 25 年度第 3 回福岡市立学校環境衛生懇話会 議事要旨

[日時・場所] 平成 26 年 2 月 5 日(水)19:00~20:10 市役所本庁舎 1505 会議室

[出席委員] 須貝委員(福岡大学教授), 元山委員(医師会理事),  
東委員(薬剤師会理事), 日高委員(PTA 協議会会長),  
屋宜委員(小学校長会役員), 梅田委員(中学校校長会役員),  
白石委員(養護教諭研究会), 森委員(教育環境部長),  
桑田委員(教育支援部長), 橋爪委員(指導部長)  
(事務局) 大塚, 平田, 徳永

[次 第 等]

1 教育委員会挨拶 事務局挨拶

2 議事等要旨

(1) 資料等説明 事務局より資料内容等を説明

(2) 議事要旨(●は事務局)

- 冷房のきいた環境で生活していると汗腺の数が少なくなるという話を聞いたことがある。
- 騒音対策で空調機整備済みの学校では、運用の中で健康に配慮するための様々な工夫をしている。既整備都市では、「運用マニュアル」を作成し、風が直接当たらないように席をずらす等の対応をしているところもある。そのような運用上の工夫でまだ拾いきれていないものを拾っていきたいと考えている。
- これまでに設置した扇風機を無駄にしたいわけではない。
- 空調機と併用して空気を攪拌したいと考えている。
- 空調機整備校でも教室の場所によって体感温度が大きく違っている。席替え等で対応する必要があるのではないかと。扇風機と併用した方が、空調の設定温度を上げて快適な学習環境を作ることができると思う。
- 国の補助金を利用するため、年度を分けて整備することになる。今回、補正で補助金を確保できる見込がたったため、15校を先行して整備することとした。24年度の温度調査結果で暑かった15校の小学校が対象となる。その他の学校についても少しでも早く整備したいと考えている。
- 学校によって校舎の構造が異なるが、どのようなタイプの空調機が設置されるのか。集中管理と教室毎の個別管理の両方ができると良い。また、夏休みに「総合的な学習」等授業を行うことがあるので、そのような場合も想定し、運用マニュアルには柔軟性を持たせてほしい。
- 夏休みのあり方についての議論もあり、例えば大阪市では空調機整備後に夏休みを1週間短くしている。福岡市でも全校への整備が終わるまでには何らかの方針を出したい。
- 温度は高くても、教室に風を入れることで体感温度が下がる場合もあり、状況に応じて学校で判断して運用できるようなマニュアルにした方が良い。ほこりやフィルター内の汚れ等でアレルギー疾患を誘発しかねないのではないかと懸念がある。
- 西日対策もやった方が良い。
- 地震対策を確実にやってほしい。フィルターはほこりがたまりやすいが、頻りに清掃をすることはできるのか。運用経費として、そのような経費も見込んでいるのか。
- 室外機を屋上に置くことはできるのか。
- 耐震工事が完了している学校の場合、室外機を屋上に設置することは問題ない。
- 運用経費としては電気代を積算している。PFI方式での整備を検討しており、機器

の設置とメンテナンスをセットにしたいと考えている。建物に合った整備方法等の提案を事業者を求める。

- ガス式であれば、ガス管が通っていない学校が問題となる。電気式であれば、大部分の学校で受変電設備の増設が必要になるため、当初整備費にその分がプラスになる。
- PM2.5 対策も今回の空調機整備に影響しているのか。
- 特にPM2.5 対策というわけではないが、結果として、窓を閉め切った状態でも勉強しやすい環境をつくることにはつながる。
- 例えば室温が 30℃を超えていて風通りが非常に良い場合、学校の先生は、空調を切って窓を開けようという判断ができるのか。
- 先生方にも柔軟な判断をしてもらい、子どもたちがコントロールできるような指導をしてもらいたい。
- メンテナンスが一番心配である。フィルター清掃等の対応は学校内では難しい。メンテナンスの費用はきちんと確保してほしい。